学校番号	123

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	国語表現　改訂版（大修館書店）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・1、２年で学習した内容をさらに発展させ、伝え合う力を高めましょう。
・自身の意見や考えをことばや文字で表現できる力を養いましょう。
・語句などの意味を理解し、知識を増やしてゆきましょう

2　学習の到達目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	出席状況 取組みの状況 提出物 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	取組みの状況 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 授業内の発言	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	1 書いて伝える	○整った文を書く ○文のつなぎ方 ○絵や写真を見て書く	○		◎	◎	a, c, d:主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	行動の観察 記述の観察 授業ノート 問題集 発問への反応
	2 小論文・レポート入門	○小論文とは何か ○反論を想定して書く	○		◎	○	a:小論文の基本的な書き方を理解する。自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。 c:現代社会に関する文章や資料を読み取り、それに対する自分の意見をまとめる。 d:文章の要旨をつかむための方法を理解する。	行動の観察 記述の観察 授業ノート 問題集 発問への反応
2学期	3 自己PRと面接	○自分を見つけて ○将来の自分を考えよう ○志望動機を考えよう	○	◎		○	a:経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 b:就きたい職業に就くために必要なことを調べる。調べたことをふまえて、「将来の自分」について発表する。 d:志望先について十分な情報を集める。	行動の観察 記述の観察 授業ノート 問題集 発問への反応
	4 会話・議論・発表	○相手や場面に応じた会話 ○議論して結論を出す	○	◎		○	a:場面にふさわしい言葉遣いを考える。 b:司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをする。 d: 視覚的資料を用いながら、効果的なプレゼンテーションをする。	行動の観察 記述の観察 授業ノート 問題集 発問への反応
3学期	5 声のコミュニケーション	○言葉のストレッチ体操 ○ショートスピーチをしよう	○	◎		○	a:コミュニケーションの楽しさを感じる。 b:話すことの順序を考えて、わかりやすいショートスピーチをする。 d:話し手が話しやすい聞き方を理解する。	行動の観察 記述の観察 授業ノート 問題集 発問への反応

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　c:書く能力　d:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。